



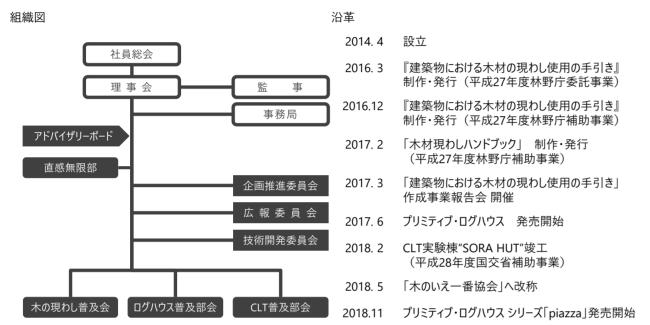
一般社団法人 木のいえ一番協会

所在地 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町22-2 神泉風來ビル2階

TEL 03-5790-6360 / FAX 03-5790-6361

info@kinoie-1ban.or.jp http://www.kinoie-1ban.or.jp/





会員制度

会員種別	入会金	年会費	内容
正会員1類(A)	100,000円	120,000円	当協会の理念に賛同し、その運営に協力いただける、年間売上規模が10億円以上の団体又は個人
正会員1類(B)	50,000円	60,000⊨	当協会の理念に賛同し、その運営に協力いただける、年間売上規模が10億円未満の団体又は個人
正会員2類	50,000円	60,000⊨	正会員1類又は支援団体会員のグループに帰属している団体(子会社・FC・提携関係にある協会会員等)
賛助会員	-	60,000⊩	当協会の理念に賛同し、会費納入を通して当協会を支援していただける団体又は個人
名誉会員	-	-	当協会の理念に賛同し、協会の活動に貢献いただいた個人
支援団体会員	-	-	当協会の理念に賛同し、提携を通して支援いただける団体(例:マスコミ・行政・当協会と協力関係にある協会)
メルマガ個人会員	-	-	当協会の理念に賛同し、メルマガの配信を申込いただいた個人

入会のメリット

木のいえを美しく長持ちさせるための手引書等、研究成果物の提供 / CLT低層住宅に関わる技術情報等の提供 / ログハウス・薪ストーブに関わる技術情報等の提供 / 新しいマーケティング手法など、各セミナーへの招待 / 木のいえに関わる最新情報の提供 / 会員間ネットワークを活用しての情報交換



木のいえ一番協会とは

木のいえ一番協会は、「木のいえ」の新しいマーケットを創造するために産学官の幅広い関係者が集い、さまざまな活動を展開しています。林業、製材、設計者、住宅事業者など、川上から川下まで、業種を横断して連携。多様なノウハウを結集して「木のいえ」の技術開発やマーケティングを推進し、その成果を会員にフィードバックします。ユーザーの参加も視野に入れ、広報活動やイベントを通じて「木のいえ」の魅力を広く発信しています。

これまでのイベント・セミナー・シンポジウムの開催履歴

2015. 3 第1回セミナー「木のいえ探究会①」

2016. 1 第2回セミナー「木のいえ探究会②」

2016.11 第1回ミーティング

2017.6 第3回セミナー「木の現わしを『主流』にしよう!」

2017.11 第2回ミーティング

2017.12 第1回「ログハウス体感セミナー」

2018.3 第2回「ログハウス体感セミナー(構造編) |

2018. 4 「森と木のいえMIRAIシンポジウム」

2018. 6 「CLT低層住宅プレス見学会」 第3回「ログハウス体感セミナー(製造編)」

20<mark>18. 9 「CLT低層住宅見学会</mark>」

2018.11 「piazza」発表会

2019. 2 第4回「ログハウス体感セミナー」

2019.3 「木のいえデザイン×耐久性シンポジウム」



「木の現わし」を主流に! 「木材現わしハンドブック」&手引き、セミナー開催

「木の現わし」使用を主流にすべく、協会では設計者向け及びエンドユーザー向けの2種類の冊子を編集・発行し、会員に活用いただいています。設計者向けの「手引き」では、現わし木材を長年にわたって美しく保つための設計/施工/維持管理のポイントを紹介。エンドユーザー向けの「ハンドブック」では、木の性質や塗装などメンテナンスの要点をわかりやすく解説しています。作り手と住まい手の両方に「木の現わし」使用のメリットと留意点を伝え、理解と実践につなげています。

また、「木の現わし」使用の設計技術とともに、その楽しさを、"木の専門家"がさまざまな事例や体験を通じて紹介します。



ログハウスの魅力を発信! 「プリミティブ・ログハウス」・セミナー開催で裾野拡大

ログハウスは、一般木造住宅の約3倍の木材を「現わし」で使用。木がたっぷりの「木のいえ」です。木の持つ断熱性や調湿性、ぬくもりなど、自然の恵みをフルに享受できるログハウスの普及に向け、特別モデル「プリミティブ・ログハウス」を開発。ログハウスの素朴な魅力を活かしたベーシックなデザインで、ログハウス未経験の工務店に対しては、設計図書・設計マニュアル提供、ログハウス組上げ実地支援など、ログ・マーケットの裾野を拡げるべく、多角的な取り組みを行っています。その他、ログハウスの展示場や施工現場などを見学することでログハウスの世界や技術を体感したあと、ログハウスを実際に手掛けるログのプロたちが、ログハウスビジネスの面白さや、そこに潜在するチャンスをご紹介します。



CLTを住宅にも! CLT低層実験棟「HUTプロジェクト」

多くの木材を利用し、構造面で優れ、施工工期短縮などさまざまなメリットで注目のCLT(Cross Laminated Timber)。日本では中層建築物などに利用が広がりつつありますが、協会では「CLT現わし」による小規模低層建築物の普及に取り組んでいます。平成30年2月に山梨県山中湖村で完成したサステナブル補助事業のCLT HUTでは、建物のすべてをCLTで作り、曝露試験や室内温熱測定を実施。また、設計コンセプトや事業趣旨のプレゼンテーションを交えた現地見学会を開催し、CLTとCLTHUTの認知拡大を行うとともに、協会の会員向けの体験宿泊を企画して、住まい心地も検証しています。















若手の可能性を応援!

日本の木を活かして使う木のいえ。その未来に向けて次代を担う若手クリエーターや木のいえに関わる若手スタッフが、集い・知り・考え・造り・行動する「部活」です。活動は、これからさまざまな展開へ。そのプレイベントとして「Hideout Party」を開催しました。









薪ストーブの省エネ機器認定を目指して!

日本暖炉ストーブ協会と連携して「木のいえ」と相性のよい薪ストーブ普及のための省エネ機器認定の法対応など、さまざまな取り組みをしています。

そのほかの取り組み

木のいえミーティングで「発見」と「出会い」を提供

話題のキーパーソンをプレゼンターに迎え、技術面や暮らし、さらにはマーケティングなど、幅広い観点から木と「木のいえ」の可能性を探求します。